

「蓬萊の玉の枝」テスト練習問題と過去問まとめ①

年	組	番	名前
---	---	---	----

【原文】

今は昔、竹取の翁といふものありけり。

野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのこと

に使ひけり。名をば、さぬきのみやつこと

なむいひける。

その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。

あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。

それを見れば、三寸ばかりなる人、いと

うつくしうてゐたり。



問1 「竹取物語」について説明文ている次の文の（ア）～（エ）に当てはまる言葉を後の選択肢からそれぞれ選びなさい。

竹取物語は、現存する日本（ア）の（イ）と言われている。（ウ）時代の初めごろ作られたと考えられており、作者は（エ）である。

【選択肢】

- カ：随筆
- キ：軍記物
- ク：物語
- ケ：奈良
- コ：平安
- サ：鎌倉
- シ：最大
- ス：最高
- セ：最古
- ソ：貴族
- タ：琵琶法師
- チ：不明

【ア】

【イ】

【ウ】

【エ】

問2 赤線ア「翁」の読みを答えなさい。



問3 青線イ～カの言葉を、それぞれ現代仮名遣いに直し、ひらがなで答えなさい。

【イ】

【ウ】

【エ】

【オ】

【カ】

問4 「翁」の意味として最も適切なものを次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：男性
- イ：名人
- ウ：おじいさん
- エ：商人

問5 「今は昔」を現代語に訳して書きなさい。

問6 「野山にまじりて」の意味として最も適切なものを次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：野山に分け入って
- イ：野山に住み着いて
- ウ：野山の中で過ごして
- エ：野山の中で迷って



問7からは、原文に加えて現代語訳も参考にして答えなさい。

【現代語訳】

今となってはもう昔のことだが、竹取の翁と呼ばれる者がいた。
野山に分け入って竹を取っては、いろいろな物を作るのに使っていた。
名前を、さぬきのみやつこといった。
ある日、その竹林の中に、根本の光る竹が一本あった。
不思議に思って、近寄って見ると、筒の中が光っている。
それを見ると、三寸ほどの人が、まことに(問13)で座っていた。

問7 「竹取の翁」の名前は何か。現代語訳から抜きだして答えなさい。

問8 「竹取の翁」の仕事は何か。現代語訳の言葉を使って答えなさい。

問9 「もと光る竹」を見つけたときの気持ちがわかる言葉を、原文の中から書き抜いて答えなさい。

問10 「あやしがりて」「寄りて見るに」の主語を原文の中から8文字で書き抜いて答えなさい。

問11 「それを見れば」とあるが、「それ」にあたるものを原文の中から書き抜いて答えなさい。



問12 「三寸ばかりなる人」とあるが、「三寸」の長さとして適切なものを次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：約3cm
- イ：約9cm
- ウ：約12cm
- エ：約15cm

問13 原文では「いとうつくしうてゐたり」とあるが、現代語訳の（問13）に当てはまる「うつくしうて」の意味として最も適切なものを次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：美しい姿で
- イ：おびえた様子で
- ウ：かわいらしい様子で
- エ：うそのように

問14 「うつくしうてゐたり」の主語を原文から書き抜いて答えなさい。



「蓬萊の玉の枝」
テスト練習問題と過去問まとめ①（解答）

問1 【ア】セ
【イ】ク
【ウ】コ
【エ】チ

問2 おきな

問3 【イ】いうもの
【ウ】よろず
【エ】つかいけり
【オ】なんいいける
【カ】うつくしゅうていたり

問4 ウ

問5 （例）今ではもう昔のことだが
【解説】他にも、「今から見れば昔のこと」、「今となってはもう昔のこと」…
など

問6 ア

問7 さぬきのみやつこ



問 8 (例) 野山に分け入って竹を取り、いろいろな物を作る仕事

問 9 あやしがりて

問 10 さぬきのみやつこ

【解説】「竹取の翁」も主語としては正しいが、8文字でという指示があるので、「さぬきのみやつこ」が正解となる。

問 11 筒の中

問 12 イ

【解説】一寸は約3cm。

問 13 ウ

【解説】「うつくし」は、現代では「美しい」となるが、古語では「かわいい」という意味なので注意しよう。

問 14 三寸ばかりなる人

※当テストでは、著作権侵害を避けるために本文の掲載を控えています。

問題・解答の内容が本文のどこにあるのかを示すために、段落と教科書に掲載されているページ上の行数を表記しています。

